



専門家のひと言がきっかけで 事業のコンパクト化に成功

鍼灸・整体・漢方の総合ケア

上田鍼灸整骨院・漢方上田薬店

ひばりが丘北口商店街（西東京市）

活用した事業

・店主スキルアップ事業

access



東京都西東京市ひばりが丘北 4-1-30

<https://www.ueda-sekkotu.com>



この地に開業してから30年。鍼灸、整体、漢方の総合ケアによって、痛みや不調などの悩みに対応している。



漢方薬店も併設。気になる症状やそれに対応する薬などは、ホームページにも分かりやすく掲載されている。



鍼灸は全身の様々な症状に対応する施術。使用する鍼は非常に細いもの。



自ら作成したホームページは、専門家の助言でさらにブラッシュアップ。

広告ガイドラインが厳格化。 対応のため専門家に支援を依頼

西武池袋線ひばりヶ丘駅からほど近く、にぎわう商店街に面した上田鍼灸整骨院。1階で鍼灸・整体の施術、2階で漢方薬店を営み、東洋医学の総合相談所として、人々の心身の不調に対応してきた。

院長の上田宏さんは、ひばりが丘北口商店街の会長も務めており、かつて、商店街の活性化のために公社の支援を受けたことがある。その経験から、2024年1月以降、自身の整骨院でも「店主スキルアップ事業」を活用し、集客や販売促進などの支援を受けることにした。

広告を出すには、範囲や表現、掲載方法など多くの規制がある。加えて2025年2月から、あん摩や指圧、鍼灸などに関する新たな広告ガイドラインが施行され、さらに規制が強化されることとなった。鍼灸に関する宣伝が難しくなるなかで、今後、どのように広報や集客をしていくのか。難しい課題に対応すべく、専門家のアドバイスを仰いだ。

複雑化していた事業のコンパクト化を 専門家のアドバイスで実現

専門家からは、SNSの活用、Webでの集客方法について多くのサポートを受けた。また、支援を受

けるなかで、運営する事業の「再構築」ができたという。

「以前は、鍼灸整骨院と漢方薬店のほかに、隣地で美容や健康のためのサロンも経営していました。広告のために店舗を分けていたんです。でも、専門家から『薬店では、脂肪が気になる人に減肥茶を売るように、症状に応じて薬やサプリメントを販売しますよね。だったら、別事業にする必要がありますか？』と言われ、ハッとしました」と上田さん。広告規制を気にかけるあまり、事業を複雑化していたことに気づかされたという。

そこで、思い切ってサロンを閉め、鍼灸整骨院と漢方薬店の2つに事業を整理することにした。「おかげで、お客様から見ても分かりやすい事業になったと思います」という。

しっかりとした支援を受けながら 「正しい目で見える力」を養うことが大切

公社の支援を受けたことで、「新しい法令を遵守しつつ、分かりやすい事業にシフトするための見直しができ、広がりすぎた事業がコンパクトになりました」と上田さん。3店舗から2店舗に事業を縮小したあとも、運営に支障はなく、順調だという。

これまで多額の費用をかけて、業者にWebサイトの整備やコンサルティングを依頼したこともあるが、思うような効果が得られなかった経験も踏まえ「公社のような公的機関の支援を受けて、正しい目で見える力を養うことをお勧めします」と助言してくれた。



穏やかな語り口の上田さん。自身の骨折が東洋医学で治った経験から、「不安を抱える人に希望ある治療を提供したい」とこの道に進んだ。